

# 古文真寶目次

序

古文真寶解題

古文真寶敍

重刊古文真寶跋

卷之一

辭類

秋風辭 漢武帝 九

漁父辭 屈平 三

歸去來辭 陶淵明 五

賦類 賈誼 三

阿房宮賦 杜牧之 三  
秋聲賦 歐陽永叔 三  
赤壁賦 蘇子瞻 六  
後赤壁賦 蘇子瞻 吳  
憎蒼蠅賦 歐陽永叔 六

卷之一

說	類
師說	韓退之
雜說	荅
名二子說	韓退之
稼說	荅
蘇子瞻	蘇老泉
○	堯

卷之三

序類

春夜宴桃李園序	李太白	(一〇)
集昌黎文序	李漢	(一〇)
送孟東野序	韓退之	(一〇)

卷之四

送李愿歸盤谷序 ······ 韓退之 ······ 一九  
送薛存義序 ······ 柳子厚 ······ 二五  
滕王閣序并詩 ······ 王勃 ······ 二六

蘭亭記	王逸少	五
獨樂園記	司馬君實	一六〇
醉翁亭記	歐陽永叔	一七三
畫錦堂記	歐陽永叔	一九
喜雨亭記	蘇子瞻	一七
岳陽樓記	范希文	一八

卷之五

箴類	大寶箴	張蘊古	三九
	視箴	程正叔	三
	聽箴	程正叔	三
	言箴	程正叔	三
動箴	程正叔	三毛	

陋室銘	劉禹錫	三九
克己銘	呂與叔	二〇
西銘	張子厚	二四
東銘	張子厚	二五
古硯銘	唐子西	二四
文類		
北山移文	孔德璋	二五

解類 愛蓮說 周茂叔

## 卷之六

頌類

聖主得賢臣頌 王子淵 六

大唐中興頌 元次山 二九

酒德頌 劉伯倫 三〇

傳類

五柳先生傳 陶淵明 三〇

種樹郭橐駝傳 柳子厚 三〇

讀孟嘗君傳 王荊公 三四

## 卷之七

碑類

潮州韓文公廟碑 蘇子瞻 三六

辯類

諸葛孔明 三

## 卷之八

桐葉封弟辯 柳子厚 三一

諱辯 韓退之 三

陳情表 李令伯 三

四

## 卷之九

表類

後出師表 諸葛孔明 三二

出師表

陳情表 李令伯 三

三

## 卷之十

書類

上張僕射書 韓退之 四二

爲人求薦書 韓退之 四二

答陳商書 韓退之 四三

與韓荊州書 李太白 四六

答張籍書 韓退之 四五

## 付 錄

- 作者小傳 ..... 卷末  
 重要語句索引 ..... 卷末  
 中國文化史要圖 ..... 卷末

## 古 文 真 寶

## 解 題

本書に「古文真寶」と題したのは、「古文の眞の宝」を集めたものという意味である。前集には詩を、後集には主として文を集めている。「古文」とは、詩では「古詩」または「古体」「古風」と称するもの、文章では漢以前の古雅な文体のもののことである。

詩は晉以後六朝の頃には、描写表現は巧みになったが、思想は弱々しく、精神は頽廢してしまった。それゆえ唐代になると、詩人は「詩經」の文学精神、いわゆる「風雅の古道」に立ち返れと主張した。陳子昂の「感遇詩」三十八首も、李白の「古風」五十九首も、この思想の現われであった。「古風」の文学精神は、近体詩の新形式と相俟って、唐詩全盛の原動力となつた。本書の前集には、主として、この古詩の素朴で健康なものと、後世の詩でも内容精神の古雅なものを集めたのである。

また文章においても、中唐の韓愈・柳宗元らが「古文」への復帰を唱えた。詩と同様に六朝の文は四字六字の対句に、音声の諧調、語句の華麗を競い、律文のような散文、いわゆる「四六駢體」であった。韓・柳二家はこの弱々しい文章を排して、先秦の孟子のような力強くて自由な文を作ることを唱道したのである。この「古文」体の文章は、宋の歐陽脩・蘇洵・蘇軾・王安石・曾鞏の六家（韓・柳と共に古文の唐宋八大家と称する）の輩出により、盛んに世に行なわれた。本書すなわち後集は「古文」と称して、周・漢以来の辞賦・文章の各種の作品を集めて、中には「四六文」も雜っているのであるが、やはり、この唐・宋のいわゆる「古文」が基調になっている。

要するに、「古文真寶」は、前述のような「古風」「古文」尊重の氣運が盛んになつた時代に、「古文」学習のために編まれたものである。

「古文真寶」二十巻は、元末、至正二十六年（二年後には明の太祖の洪武元年となる）の鄭本（字は士文）の序（後出）によれば、当時すでに久しく世に行なわれていて、これより先、林以正によつて校訂され、注釈も整備されたことがわかる。以